

健康メディカル学部 理学療法学科

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各学科・コースは、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、以下CP）に基づき、それぞれの特色を活かした教育方法による授業を行っています。さらに、資格取得科目の充実など、教育方法に工夫を重ねながら、教育内容の向上に取り組んでいます。また、大学全体として、全学部生が共通して履修する必修科目、「フレッシュセミナー」「アドバンスセミナー」においては、少人数教育を実践しています。セミナー担当教員は、各学部・学科・コースのCPに基づく学修指導の他、学生生活全般にわたる指導を行っています。これにより学生は、社会人として求められる常識や教養等の汎用的能力と、各自の専攻分野や関心領域に関わる幅広い知識をバランス良く身につけることができます。この「セミナー」は、キャリア教育の一環として、学生の様々な相談にも応じています。

【教育方法】

理学療法士の資格取得を視野に入れて、教養科目、専門基礎科目及び臨床実習を含む専門科目等を通じて、自ら学べる学習態度を習得させ、生涯教育が必要である医療系専門職の素養を身につけられるよう配慮しながら授業を行っています。

【教育の特色ある工夫】

- ・17～18人程度のグループを編成し、医療人としてのマナー、社会人としての自覚を含めた、各担任によるきめ細かい学修指導を行っています。
- ・専門科目の演習・実習は3グループに分けて、治療ベッド40台、2人で1台を使用しながらきめ細かく実技指導を行っています。
- ・実習室にはスリングセラピー装置が10台、最新の物理療法治療器、運動療法機器、運動動作解析室には三次元動作解析装置、床反力計、足底圧分布測定システム、呼吸循環測定器、筋電計、脳血流測定装置などを設置しており、充実した演習・実習・研究が可能となっています。
- ・「運動と行動（実習）」は8グループに分けて、三次元動作解析装置、床反力計、足底圧分布測定システム、呼吸循環測定器、筋電計、脳血流測定装置などを使用して、基礎的研究を指導しています。3年次に開講される理学療法研究方法論実習（グループ研究）、4年次の卒業研究に継続的につながるように研究指導を行っています。
- ・多職種連携論を開講しチーム医療を推進するための基礎的学修を行っています。